

令和6年6月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和6年6月3日（月）午前11時00分～11時40分
場所 市役所2階 第3委員会室
出席 市政記者クラブ7社 9名

会見内容

1. 話題提供（2項目）

1 「第34回北前船寄港地フォーラム in ひがし北海道・くしろ」の開催について

- まずひとつ目として「第34回北前船寄港地フォーラム in ひがし北海道・くしろ」が6月29日（土曜日）午後1時より開催されます。
- 「北前船寄港地フォーラム」は、北前船の伝統を現代に生かし、寄港地や関係を有する自治体が連携してその魅力を発信し地方創生に寄与することを目的に2007（平成19）年から開催されています。
- 今回は釧路で開催されるということで、太平洋側での開催は初めてになります。
- その背景は、この地域から北前船で運ばれた昆布や魚肥の産地であることから開催されるということで、当然その中には歴史があります。
- 江戸時代に、厚岸町に国泰寺が設置され、廻船業者だった高田屋嘉兵衛（たかたやかへえ）が活躍した最前線でありました。そして、先ほど言いましたように昆布などが運ばれ、「富の淵源（えんげん）」の地であったと位置づけられています。
- 当日は、有識者による北前船と昆布の関係や、北前船の船主が果たした役割、アドベンチャートラベルに関するトークセッションなどが行われるほか、北海道および釧路総合振興局管内市町村、地元団体、福井県等による観光・物産PRブースを出展する予定です。
- あらためて、この北海道の地域の中から素晴らしいものが日本を周り、あわせて沖縄や中国、ヨーロッパに運ばれているわけですから、こういったことをしっかりと踏まえていきながら、地域の躍進や自然に恵まれた地域を守っていくことにつなげていく、そういった機会にしていきたいと思っています。

2 季節便・チャーター便の運航について

- 二点目は、季節運航便・チャーター便の運航についてです。
- Peach（ピーチ）の大阪（関西）－釧路線が、7月1日（月曜日）から9月30日（月曜日）の三か月間季節運航します。これは関西とひがし北海道を結ぶため、釧路・女満別に運航していたもので、一時は新型コロナウイルスの影響を受けて中止していたものが、この季節に運航するというものです。
- 今回もこの2つの空港（釧路空港・女満別空港）で運航し、釧路空港へは、「火・木・金・日」の週4日、女満別空港へは「月・水・土」の週3日という形で1週間運航し、1日1往復を三か月間行います。
- また、釧路と名古屋を結ぶ、日本航空（JAL）の名古屋（中部）－釧路線・帯広線が、8月1日（木曜日）から8月31日（土曜日）まで、季節運航します。
釧路空港へは「火・木・土」の週3日、帯広空港へは「月・水・金・日」の週4日の1週間という形になり、1日1往復で運航します。
- さらに、全日空（ANA）の大阪（伊丹）－釧路線が8月10日（土曜日）から8月14日（水曜日）までの5日間を毎日1日1往復で運航いたします。
- 次に、チャーター便の運航についてです。フジドリームエアラインズ（FDA）が釧路を発着としたチャーター便を9月3日（火曜日）～9月10日（火曜日）の期間で計21

便運航します。

- チャーター便のため、釧路から乗ることはできませんが、多くの方々が釧路を訪れていただけるものになっています。
- 季節便については、釧路の方からも関西・名古屋・伊丹へ訪れることができる便が夏の期間運航します。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・ 季節便の昨年の実績はわかりますか。

(観光開発主幹)

- ・ Peach (ピーチ) の利用率が93.4%、日本航空 (JAL) の利用率が87.4%、全日空 (ANA) の利用率が88.6%となっております。これらは釧路便の利用率になります。

(質問)

- ・ 旅客数の数字はわかりますか。

(観光開発主幹)

- ・ Peach (ピーチ) が22,738名、日本航空 (JAL) が3,748名、全日空 (ANA) が1,176名となっております。

(質問)

- ・ 季節便を来年度以降も継続するには、こちらから乗る数も必要だと思いますが、市として取り組んでいく施策はありますか。

(市長)

- ・ 海外便においては課題となっておりますが、国内便は非常に高い搭乗率になっています。国内線は定期便に向けて要請を行っているところですが、多くの方が利用してくれていることは理解してくれているものの、運航に関しては機材の関係もあります。今は飛行機を発注して納品まで5年かかると言われています。こういった観点もありますので、体制が整うまでは、このような季節便を活用していきながらと思っています。

海外便については、台湾からチャーターが来ましたが、来ていただくということにおいては大人気ですが、こちらからの利用者についてはいろいろと取り組んでいきたいと思っています。

(質問)

- ・ 海外のチャーター便に関して、国内の空港ではグランドハンドリングの問題などでやめる動きが出ていますが、釧路では海外のチャーター便が来るという話や中止になってしまったという話がありますか。

(観光開発主幹)

- ・ 現時点で海外からのチャーター便でいただいている話はありません。グランドハンドリングの問題は、いろいろな空港で課題になっていることは承知しています。我々としては情報収集に努めているところです。

(質問)

- ・ 音別の太陽光発電の問題について、市長は北海道から開発事業者が行政指導を受けたことに関し、「原状回復はできない」と仰られていました。そのことについて北海道に伝えると言っていました。もう伝えましたか。

(市長)

- ・ 確認はしていませんがもう伝えていると認識しています。人工物は原状復旧できますが、

自然環境の原状復旧をどのように考えていけばいいのかは、様々な考え方が必要だと思っています。

(質問)

- ・原状回復が無理ということになりますと、これ以上工事が進まなくなり、パネルの設置自体も難しくなる状況と思いますが、そういう認識でよろしいですか。

(市長)

- ・色々なルールがあると思いますが、原状復旧が外形的なものだけなのか生態系も含むのかということ投げかけました。しかし、そのことについての見識がありません。あわせて確認する場面では、行政体が確認するのか専門家が確認するのかが組み立てられていません。そういったことから問題提起の話をさせていただいています。当然現場である我々の所にどうするかの話が来ると考えています。ガイドラインを制定し、次に条例化を進めていくところですが、条例にどのように盛り込めるのか相談しているところです。ルールとしてどのように解釈するのかについてしっかりと共通の見解を持つことが必要だと考えています。

(質問)

- ・アイスホッケーについて、先日民間の方々から新チームをつくる会を立ち上げたと思いますが、市としても進めている中であり、民間から動きがあったことについての市長の受け止めをお聞かせください。

(市長)

- ・氷都くしろとして、アイスホッケーへの皆様の思いからプロチームを持ちたい気持ちが高いということの表れであり、これまでの歩みやこれからの活動につながっていくものと力強い思いで、大変感謝しています。こういった機運は重要であると考えています。その上で、アイスホッケー連盟や経済界が入った中でトップリーグのチームを持つことについて相談をしているところであり、しっかり取り組んでいければと考えています。

(質問)

- ・民間の方々とは連携していく必要があると思いますが、どのような形で連携していくのですか。また、現在の新チームの進捗をお聞かせください。

(市長)

- ・思いがあることは大変ありがたいことだと思っています。次に永続的に継続していくためにはどのように考えていけばいいのかということです。当然のように運営していくには人件費など様々な課題があります。これらをどのようにしてしっかり構築していくのかということもあります。そのベース作りをアイスホッケー連盟や経済界と相談しているところでもありますので、永続的なチーム作りに向かっていきたいと考えています。

新チームに向けては、今月末から7月の中旬くらいにアイスホッケー連盟から発表していくことで調整していますので、もうしばらくお時間をいただければと思います。

(質問)

- ・発表とはどういったものになりますか。

(スポーツ課長)

- ・連盟と市で協議を進めているところですが、連盟が主体となって動いていますので、発表につきましては連盟の発表をもって、市がどうしていくかを発表出来ればと考えております。

(質問)

- ・津波避難タワーについて、国の補助が要望額より少し足りなかった問題がありますが、現時点で工事のスケジュール等影響が出ていますか。また、減収になった分どのような対応をされるのかお聞かせください。

(市長)

- ・すでに事業を進めている釧路町などは計画をずらしながらというニュースを見たところですが、100%確保に向けて6月7日(金曜日)に北海道と関係市町村で国(国土交通省、財務省)に令和6年度の補正や令和7年度の予算確保などを要請します。その結果を踏まえていかなければならないと思っていますところ。一般的に80%の配分率ということになりますと、我々も計画を見直していかなければならないと思っていますところ。これが補正等でどのタイミングで予算が付くかということになりますが、1日でも早く完成させていきたいという思いはありますので、今は要請していくことと時期によってはスケジュールが変わってくる可能性が極めて高い状況になっているということです。

(質問)

- ・6月7日の要請には市長も東京に行かれるのですか。

(市長)

- ・行きます。

(質問)

- ・予算確保が難しくなるとスケジュールが変わってくる可能性があるとのことですが、それを避けるために満額付けてもらうために働きかけるということですか。

(市長)

- ・事前にいろいろ進めることができない仕組みです。この空白の時間でどのような影響が出るのかということになります。当初の計画では令和8年度には完成する予定ですが、予算が付かなければそれが延びるということになってきます。まずはしっかり話をしていきたいと思っています。

(質問)

- ・阿寒湖のマリモについて、地元の観光協会などが寄付を募って水草を刈り取る話があるようですが、言い分としては、市や教育委員会の動きが思うように進んでいないから自分たちでという主旨みたいですが、これに対する受け止めと今後の対応について教えてください。

(市長)

- ・マリモについては研究と保護の形で進めています。その保護の中で水草除去をどのように進めていくことが必要かについては、今年その状況を調査していきながら来年からの除去に向けて進めていく予定でいました。今聞いた話では、以前より水草の成長が速いことが考えられます。そうすると今年1年間放っておくとマリモが回転できずに壊れてしまうということになってしまいます。阿寒の方からは早急な対応が必要ではないかと聞いているところですので、その状況を把握した中でどのような対策を取るのか今日にも検討していくことを考えているところです。

しっかりとマリモを保護していきながら、マリモを含めた自然環境の世界自然遺産登録を目指しているところですので、大切な財産については、状況を踏まえてしっかり対応していきたいと考えています。

(質問)

- ・水草の除去については市や文化庁など行政の予算で行うことが通常と思いますが、民間が行わなければならない状況はどう考えていますか。

(市長)

- ・国も同じですが、行政は単年度予算になります。新年度の予算は2月議会で決定し、その前から予算議論を行います。リアルな状況に対応するというよりも政策と合わせながらになります。例えば翌年の冬の事業であれば、1年半前にプランニングすることになります。

地方自治体の予算については1件採択ですので、1万円であっても1億円であっても、どのような形で行っていくのか説明しながらになります。こういった状況の中で、補助を獲得していくため、調査でデータを取っていきながら、翌年度の計画に結び付けていこうと取り組んできたところです。しかしながら、現場の状況の中で懸念が出ているということで、いろいろな対応を行っていく必要があると捉えています。行政体ができないから民間が行うという話ではなく、状況を踏まえてどのように対応していくのか今日にも相談していきたいと思っています。この状況を伺ったのは昨日の夕方ですので、早急に考えていきたいと思っています。

仕組みと現状の時間的な問題についてご理解いただければと思います。

(質問)

- ・6月になり市長の任期が近づいてきましたが、心境や今後のスケジュールをお聞かせください。

(市長)

- ・これから6月議会も始まります。今回もいろいろと提案していきますので、まずは誠心誠意しっかりと頑張っていきたいと考えております。

(質問)

- ・6月議会で態度は表明されますか。

(市長)

- ・今回は予定されている議案がいっぱいありますので、まずはしっかりと説明していきながら頑張っていきます。

(質問)

- ・これまではだいたい議会で表明される感じですか。

(市長)

- ・どうだったか覚えていません。

(質問)

- ・いつごろまでに態度を示したいという目途はありますか。

(市長)

- ・様々な課題等がある中で、まずはしっかりと最優先で進めているところです。

(質問)

- ・本日の午前中に宿泊税の懇談会が開かれました。そこで市の案として定額一人200円と示されました。額の妥当性について市長としてはどのように考えていますか。

(市長)

- ・まずはたたき台として考え方を示していくことが重要だと考えており、そうした中でしっかりと議論を行っていくことが必要と思っています。北海道の動きを踏まえた中で、より具体的な検討にこれから入っていけるものと考えておりますので、しっかりと考えをまとめていきたいと思っています。

(質問)

- ・本日の委員の中には「観光振興を市として進めている中で、抑制する動きになるのではないか」という懸念の声も出ていました。そこについてはどのように考えていますか。

(市長)

- ・できるだけ負担を少なくしていきたいと考えることは当然だと思いますけれども、今は成長していくことを目標にしていくことが重要だと思っています。まさしく世界はそういう動きをしています。当然適正な価格やこういうことに必要という話になってきますので、税額については現実を踏まえながらいろいろと検討していくことになります。

長引く状況の中で若干でも負担が増えることは抑制になるのではないかという気持ちは国内的にはあるかもしれませんが、これからのインバウンドを踏まえたり、世界基準で物事を考えていくときには逆の動きもあることが実態です。

たたき台を示し、議論をスタートさせたところですので、しっかりと相談しながら考えをまとめていきたいと思っています。

(質問)

- ・使い方の明示も必要と思います。北海道が示している内容もまだ抽象的ですので、釧路市として宿泊税を取るとなった時にこういう施策をとっているものが市長の中に考えているものはございますか。

(市長)

- ・観光は第4の産業と言われて久しいですが、我々は観光ビジョンや経済波及効果を示していきながら取り組んできたところであります。そういった意味では、観光庁ができスタートした中で、観光立国ショーケースも含めて様々な分野に取り組んできました。まさに私共の「観光をしっかりとした産業にしていこう」というものをさらに躍進させていこうという中では当然財源が必要になってきます。今まで行ってきたことをさらに拡大していくことをイメージしているところですので、具体的なものはありませんがこのように取り組んでいきたいと考えております。